

## 知事記者会見（平成21年7月27日）

### ●知事発表

なし

### ●幹事社質問

- (1) 「村なか街かどミーティング」について
- (2) 知事就任3ヶ月の感想について

### ●その他の質問

- (1) 8月臨時議会の規模・内容について
- (2) 県庁正面玄関の改装について
- (3) 県の防災体制について
- (4) 県職員の酒気帯び運転について
- (5) 仙台市長選について
- (6) 職員の処分について

時間：12：59～13：35

場所：県庁プレゼンテーションルーム

---

(幹事社)

よろしくお願いします。今日は、知事発表事項はなしということで、幹事社から2点ほど質問させていただきます。

まず、先週、何回かやられたと思うんですけど、「村なか街かどミーティング」について知事のご感想を伺えればと思います。

---

(知事)

新しい幾つかの県の計画的なものをつくるため、また、それだけではなく、県内の状況を知るため、振興局毎に2か所ずつ、計16か所で仰々しい会議ではなく、7、8人ぐらいで、いろんな分野の皆さんと地域毎のテーマを決めて情報交換を行いました。

秋田市長でしたので秋田市内はしょっちゅう回っていましたが、全県的には昔のイメージしかありませんでしたので、先週3日間で、秋田地域、県北地域とかなり急ぎ足で回りました。8月に残りの県南部分を回ります。

堅苦しい会議ではないということで、市町村の参加を求めず、また、組織の会長さんというよりも、青年部の会長だとか、地域で実際に活動している方、あるいは子育て支援のNPOの方とか、農業者の方でも今農業法人をつくっていろいろなことに取り組んでいる方

など現場の方の意見を聞くことができ大変参考になりました。

大きく分けると少子化・子育て支援が大きな一つのくくり、もう一つは農商工連携のような産業振興、また、地域の観光開発・まちづくりという3つぐらいの大きなジャンルに分けましたが、県に対して非常に建設的な要望が多く、単にハコもの予算をつけてほしいではなく、今一生懸命やっているけれども、自分たちの力ではいかんともしがたいということがあるということで、特に最近では、農商工連携も、まちづくりも、市町村あるいは一つの地域振興局を越えた秋田県全体、あるいは東北、オールジャパンと国際的なところまで派生して考えないといけない時代ですので、そういうところで県のバックアップが欲しいという声はどこへ行っても聞かれました。連携、情報交換のシステム、あるいはリーダーの育成に対する県のバックアップ等のあり方についても大変勉強になりました。これから我々が何を目指すべきなのかということについて、ある程度示唆を与えていただいたような気がいたします。

もう一つは、(知事に就任してから)3か月ちょっとですが、2回ほど県外にも売り込みに行ってきました。前から「バイ秋田セル秋田」と言っていて、とにかくがむしゃらに物を売る、外へ売らないとお金は稼げないということでやってきていました。海外での日本の農産物に対する見方とか、あるいは中央での他県の販売戦略等について、私も得意ではないんですけども興味があっているんなことを調べていますので、そういうことをお話して、逆に参加した方から、いいことを教えてもらったと、早速実践しようなんていう方もいました。そういう意味では、大変いい機会ではなかったかと思えます。特に現場の方々の意見というのは、実践に基づいた意見で、現在の状況に合わせることができます。ざっくばらんに、堅苦しくなく、県民の皆さんの意見を聞いて、私も好きなことを言わせてもらいました。そういうことで、参加された方は大変いい機会だったと好意的に取っていただいたような気がいたします。

-----  
(幹事社)

今後その中から具体的にフィードバックを考えていらっしゃるようなところがありますか。

-----  
(知事)

今回、非常におもしろかったのは、子育て支援などについては、いろんなところでやっ  
てるはずだといわれるけれども、その状況が全然見えないという意見がありました。そう  
いうところについて、県がある程度、ネットワーク、情報が交流するシステム、例えばあ  
るところにアクセスしたらほとんどのことがわかるとか、あるいはそういうところといろ  
んな交流したいという場合の中継ぎをするようなシステムをつくるとか。少子化対策につ  
いてなんです、昔でいう仲人さん、今はマリッジアドバイザーとあって、仲人さんとい  
うと嫌がられということで、マリッジアドバイザーという結構相談もあったりして、事  
実上かなり結びつけをやっている方の意見として、我々が少子化政策として、官製婚活を  
してもなかなかうまくいかない。ところがそういう方々は、非常にうまくやっ  
てらっしゃって相当な実績があります。そういう方々の話を聞いて、我々がこれからやろうとする  
ところにも現場の方々の意見を反映したシステムをつくれるものがありました。

もう一つは、農商工連携といっても、それぞれの地域に行きますと、前からのお付き合い、取り引きのあるところの話はわかるんですけども、それをちょっと拡大すると同じ町でもわからないということがあります。たとえば、片方で、ある農産物が余ってしょうがないと。もう片方の加工業者はその農産物が欲しくても、なかなか手に入れられないでいると。ところがその2つの間に何のネットワークもないわけです。片方はそれは手に入らなくて困っている。片方はもう余って、腐ってしまうから捨てるだけでは、こんなもったいないことはないわけです。同じ町でもそういうことがわからなかったということがありました。合併したところでは、まだ合併前の単位でしかやり取りしていない。合併後の大きなくりで連携ができていないというところもちょっと見えました。

物の斡旋まで県がやるかどうかは別にしても、そういう事実が、1か所だけではなくて何か所かであったということで、そこら辺をうまく結びつけることによって、農商工連携がさらに進むのではないのでしょうか。県が頭の中で考える仰々しいものでなく、日常的なものに対する側面支援のようなものがもしかしたら今後の前進に非常に役に立つのかなと思います。

早速、担当部局でも、県として何をやるかを具体的に検討して詰めていくことにしています。さらに、幾つかの基本的なこともあります。海外への販売については、地域によって非常に一生懸命やっていて、我々、県が想像している以上にやっているところもあるし、生産能力は同じぐらいあるけれども、そういうところが不得意なところもあったりしています。現場の人たちの意見をお聞きしましたので、ジャンル毎のいろんな政策が具体的に立てられるんじゃないのかなと思います。あまりにもそれにとらわれ過ぎるのもいけないのですが・・・今一生懸命やってらっしゃる方は、あまり物事を暗く考えないで、頑張るんだと、頑張っただけで売れたと、もっと売りたいので、そこで何とかしてくれということでした。そういうやる気のある人がいっぱいいるということで、秋田も元気が出てきたような感じがいたしました。私は希望がわきました。

---

(幹事社)

ありがとうございます。

次なんですけど、この週末に知事公舎への引っ越しも終えられたそうで、就任3か月が経ちましたけれどもこれまでの感想をお願いします。

---

(知事)

はい、4月20日の就任以降、経済対策だとか、医療問題だとか非常に大きな課題を背負ってのスタートでありまして、当然その最初の3か月というのはいろんなところへ儀礼的なものも含めてあいさつ回り、韓国、台湾にはあいさつ回りというよりも、実務としていろんな交渉事もしてきた訳であります。さらには総選挙というものが入ってきて、全国知事会の仕事もそれなりにこなさなければならないということで、本当にあっという間の3か月であったと思います。その間いろんなことがありました。私も12年前まで県庁にいましたけれども、時代もどんどん変わっていますので、新しい発見もありましたし、村なか街かどミーティングでも、これは私の考えに似ている、私の考えとそんなに違ってなかったというのものもあるし、逆に想定していなかったことが出てきたり・・・とにかく慌た

だしい3か月でありました。

私なりに体を壊さない程度に、結構お酒は飲む方ですけども少し控えて今までやってきたつもりです。いずれ、これから来年度に向けて大きな課題の解決に向けて全力で進んでいかなければならないという気です。

-----  
(幹事社)

3か月はあっという間だったということですけども、今、これからはこうもって何ですか、佐竹カラーを強めるというのは。

-----  
(知事)

今日もいろんなことで会議というか検討会をやっています。大きな課題はわかりますけれども、大きな課題の中のパーツ、パーツの課題というのは知事に就任してない知らない訳でありまして、そういうところが少しずつ見えてきました。それと関係する県内の主要な方々と、できるだけ話し合う機会を持ってきましたので、どういうところに現場では課題があるのかもわかってまいりました。今後、来年度以降に向けての本格的な政策推進に対して、私の主観的なものも入るでしょうけれども、私なりの考え方を各部局に示しながら、チェックしながら固めていきたいということで12月頃まではそういう形になると思います。

-----  
(幹事社)

ありがとうございます。では関連してご質問あればお願いします。  
ないようでしたら、そのほかに関して質問をお願いします。

-----  
(記者)

別件ですけども、8月の臨時の県議会の方に補正予算を提案されるということで議会運営委員会である程度説明ありましたけれども、どの程度の規模で、どのような中身で、どんな狙いで、何をされるのか教えてください。

-----  
(知事)

16億円くらいで、主なものとして、公共施設等の環境対策とか、国の基金関係の事業で3年間でやる事業ですけども、秋田の場合、公共事業というのは冬はできませんので、9月議会でやるよりも8月臨時議会でやると2か月早くなるので、9月議会を待たないで部分的に8月臨時議会に持ってきたということです。特に、この太陽光発電関係については雪が降ると工事ができませんので、財源の手当がついたものは早めにやろうということが中心です。

-----  
(記者)

あともう1点、別件ですけども、正面の入口を今、改装してますけど、その狙いというか、なぜ。

(知 事)

気分一新ということが一つあります。別に知事が替わったから気分一新ではないんですけれども。

もう一つは、何人かの方から県庁が非常に暗いといわれました。これについては県議会でも言われていました。また県庁、第二庁舎も含めてですが、玄関が、県民あるいは他県から来た方にとってはいろんな情報を得る場でもあるということで、そこが何となく入りにくいし、そのようになっていないというご指摘もありましたので、あまりお金がかからない範囲で紹介機能とか、第二庁舎の方は産業振興を中心にした形の広報的なことができるようにということで今やっております。

-----  
(記 者)

今、山口とか福岡とか佐賀及び広島とかもそうかと思うんですけれども、ものすごい雨でいろんな被害が出ているかと思えます。特に山口県の防府市というところでは、特養に土石流が押し寄せまして大きな被害が出たかと思えます。建設交通部に聞いたところ、秋田県でも土砂災害警戒区域というところに要援護者施設が22か所あるそうなんですけど、土砂災害防止法に基づく、市町村とそういう施設との連絡体制というものが、明確なものできていないという、すべてに関してできていないという現状があるんですけども、災害というのはたぶん明日は我が身だと思うんですけども、まずその現状をどのようにお考えか教えてください。

-----  
(知 事)

今月のたくさん雨が降った19日、災害警戒室にいきまして、午前中ずっとモニターでみながら職員から状況を聞いたりしていました。防災対策というのは起きた状況を見てということもありますけれども・・・今までは、現状の形で耐えられたかもしれませんが、秋田県内でも北秋田から南秋田、秋田市の西部から北部にかけて、ここ2、3年非常に集中豪雨的なものが起きています。これもいろいろ聞きますと、気象の変化ということのようではありますが、今までの降り方とは違ったような雨の降り方、あるいは風の吹き方があるようですので、防災体制についてもう一度チェックする必要があるのかなと思いました。

その日も、幾つかの状況の中で検討を指示しました。臨場感を持ってやるということが大事だと思います。市長のときも災害になると災害対策本部ができる前に自分で長靴履いて、自分で車を運転してチェックするという、そういう習慣がついていまして・・・いろんなことをチェックしたり、考慮しなければならないことがかなりあるような気がいたします。具体的に全体のことについては話していませんけれども、他県の状況を見ながら、またそればかりではなく、自分の足元も見ながら、今までのルールで適合するかどうか、あるいは今までのルールが果たして合っているかどうか、少し考えた方がいいよというお話をしております。今の件についてはまだ具体的なイメージが頭の中にあるんですけども、秋田県内にも危ない箇所はあるという話は聞いております。

-----  
(記 者)

18・19日の大雨で、あの、変更を指示されたと今おっしゃったんですけども、具

体的にあの雨で知事から見てどんなところを部署に変更を指示されたのでしょうか。

-----  
(知 事)

専門的な知識がある人と、そうでない人との意思疎通をどうするのかこれがなかなか難しいんですが・・・細部になると建設工学、地質学とか、流体力学とかそういう分野になってくるんですけども・・・実際の現場のところについては、イメージがわからないという無理なところもあります。例えば、ある事象について私が聞いても、それに答えられる人はほんの僅かしかいなかったりします。そのほんの僅かな人は、その状況ではその場になかったりする訳であります。また、ある程度のレベルにならないと、そこに来ないかもしれません。特に技術的なことからくる措置というものについては弱いと思います。

たまたま私が、技術系出身だからそう思うのかもしれないけれども、世の中には技術系出身でないと気が付かないことがあるんですよ、特にこういう物理現象については。そこら辺はこれから少しでも前進するように、担当部局ばかりじゃなくて全庁的にやらなきゃならないと思います。

-----  
(記 者)

すいません、あのあともう1つだけなんですけども、先程ちょっと述べたあの土砂災害警戒区域に関してなんですけども、今は確か25市町村のうち10の市と町なんですけども、今のところ指定を受けているのは危険箇所とされているうちの大体1割ぐらいなんですけども、これだけ全国的に災害が起きる中で、今後、その指定を早めていくとか、予算を多く投入してピッチを早めていくとかというようなことを考えられたりとかってというのはしていないのでしょうか。

-----  
(知 事)

今の段階でまだそこまで行ってません。今、いろいろ最近起きたことも含めてそういう重要な事項について、時間の合間をみて検討会をやっていますので、そういう中でということになると思います。

-----  
(記 者)

あの、10日程前に飲酒運転の県職員がいたそうですが、それについて知事からお願いします。

-----  
(知 事)

何ていいますか、もともとやってはならないことで大変残念なことです。途中まで代行車で行ったということで、代行車で行ったんだったら最後まで行けばいいことでして、公道でハンドルを握るといことは、これはあってはならないことです。警察の取調べもやっているようですので、そういう状況を見て対応をしなければならない訳であります。

-----  
(記 者)

あのまあ今回の事案を受けて、改めて各部署にですね、その注意を徹底するようなこと

はされたんでしょうか。

-----  
(知 事)

改めてというのは言ってませんが、あまりにも当り前のことで、私も情けなく思っています。ただ、私の口からみんなを呼んでということではないですけども、特にこの夏休みの前、お酒を飲む機会も多くなるし、お盆もあったりして、気が緩みがちになりますので、朝の会で飲酒運転のみならず、気の緩みというものには律するよというこ  
とで各部局長には言っています。

-----  
(記 者)

昨日の仙台市長選で政令指定都市初の女性市長が誕生しました。この点について知事のご見解をお願いします。

-----  
(知 事)

当選された市長さんとは面識もありまして、秋田にお住まいになったこともあるという  
ことで、私が秋田市長のときに副市長さんとしてあいさつにもお見えになっていました。  
そういうことで、候補者の中では唯一面識があってお話をした方ですので、大変私も嬉し  
く思っています。

また、特に政令市、東北地域ではやはり仙台というのが都市の規模からいっても全体を  
リードしていく立場のところでもあります。一方、仙台市も大変いろんな課題も抱えてい  
ます。是非市長さんには、副市長さんも経験されたましたので、頑張っていたきたいな  
と思っっています。機会があれば激励を申し上げたいなと思っっています。

-----  
(記 者)

奥山市長も、市の職員ということで公務員出身なんですけれども、知事もかつて県庁職  
員だったということで、その公務員ならではの特徴というのはあるんでしょうか。

-----  
(知 事)

ある意味では、それが逆にいうとマイナスになる可能性もあるんですけども、物事を  
後戻りなくできるというのは一定のルールというものが分かっているからだと思っ  
ます。ただ、このような変化の時代ですので、経験則からくるルールだけを守っていればそれで  
いいというものではないです。ですから、現場の職員の場合は、ルールというものは第一  
義的で、政治的に動くというのは、公務員としてはそれは抑制するようになっています。

だから、時代の流れを踏まえながら、公務員としての経験を生かしながら、そのルール、  
あるいは道筋というものを頭に入れながら、市長だとか知事という選挙で選ばれた者は新  
しいファクターを取り入れて、効率よく、新しい視点でものを進めるということになるの  
かなと思っます。

-----  
(記 者)

ありがとうございます。

-----  
(記 者)

先程の飲酒運転の関係なんです、確か平成15年くらいから秋田県の場合は飲酒運転が検挙された時点で一律懲戒免職という厳しい措置をとっていると思うんですが、佐竹知事はこの規定については変更するお考え等々はございますか。

-----  
(知 事)

基本的に1回つかったルールですので、それを、その時その時で変えるというのはおかしな問題だと思います。今回のものという特定ではありませんが、状況によっては全国的にも（懲戒免職処分が）裁判で逆に覆ったりしているものがあったりして、物事がゼロか1かという、そういうものでもない場合も中にはある可能性があります。ですから先般も、停職6か月がどうかというお話があり、それがいいのかどうかということ、さらに長期の停職というものが有り得るのどうか、今、検討しています。ただその、1回決めたことが特別な社会背景なしに、極端に変わるということは好ましくはないと思います。

まあ今回のことについても、それを踏まえた上での処分になるのかなと思います。正式な情報が警察からもまだ上がっていませんが。

-----  
(記 者)

確認ですが、そうしますと、まあ原則的に1回決めたルールを簡単に変えられるものではないというご認識でしょうか。

-----  
(知 事)

ないというのが基本認識です。今回の例をどうするのかはまた別の話です。それは、最終的な判断は、またその状況によってです。

-----  
(記 者)

あとその飲酒運転に関して言えば、市町村によっては、必ずしも一律懲戒免職じゃない、停職処分だったりする、秋田市はちょっとどうだったか私わかりませんが、そういう市も、停職という規定のある市もある訳で、事故が起きてないとか起きてるとかその辺で分かれるんですが、そういう市町村とですね県が同じ公務員でありながら処分にばらつきがあると。特に教育委員会関係だと、まあ同じ市町村職員でも教員の場合は県教委の処分に準じる形になると思うんですが、そういったばらつきがあるということについてはどのようにお考えですか。

-----  
(知 事)

同じ公務員ですので、本来はあまりばらつきがあるのは好ましくない。やはり不祥事が続くと、非常に神経質になって、ものすごい厳しく処罰、処理するということもなきにしもあらずということがどこどこというんじゃなく日本全国を見た場合にあります。ですからそういう中でもう一回落ち着いて見ることも必要かもしれません。いろんな状況がありますから、その状況を必ずしも甘く見るのではなく、相当厳しく見たとしても若干の情状



酌量の余地があるというものも中にはあり得ます。そういうところも踏まえて、全体としての幅を持って、その中で処分を検討するということも考える必要があるかもしれません。その際は情報公開が鉄則です。同じ場合で違うものがいっぱい出てくるとこれもおかしな話ですので、ただ、状況を掌握してというのは、なかなか定数化できませんので、難しい面もあります。そこら辺が非常に悩ましいところですが、いずれにしても、お酒を飲んでからハンドルを握るといのは何でだろうと思います。

例えば、全くの不可抗力で、酒も飲んでなくて事故を起こす場合だってある訳ですが、これだけはわかっていることですから情けないと思います。今回の処分については、後で状況を把握した上で、いずれかの時期に出すということになっています。

-----  
(記者)

1点確認ですが、じゃあ今回のことに限らずですね、その一律懲戒免職となっている部分に関しては、検討する可能性はあるということでしょうか。

-----  
(知事)

それだけではなく、懲戒処分の停職6か月が上限ですので、それが他県では1年という状況もあるようでございますので、そういう状況も見て、全体として、先程お話したとおり市町村だとか他県との状況を見ながらということもあろうかと思えます。

-----  
(幹事社)

ほかにご質問ありますか。なければこれで終わらせていただきます。

-----  
(知事)

はい、ありがとうございました。

-----  
(幹事社)

ありがとうございました。